

# 「2050としまゼロカーボン戦略」(素案)パブリックコメント実施結果

## 1. パブリックコメント実施概要

- (1) 実施期間 令和4年4月21日～5月20日
- (2) 周知方法 広報としま4月21日号掲載、区ホームページ掲載(実施期間と同期間)
- (3) 閲覧場所 環境政策課、行政情報コーナー、豊島清掃事務所、区民事務所(東部、西部)、図書館、区民ひろば
- (4) 受付方法 メール13件、郵送1件
- (5) 提出意見数 51件  
※複数のご意見をお寄せいただいたものがあるため、受付方法別件数と提出意見数は一致していません。

## 2. ご意見の概要と区の考え方 ※主な戦略の記載箇所別に分類しております。

### (1) 第2章 ゼロカーボン

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
1	「1.5度目標」は、パリ協定では「努力目標」。2018年10月のIPCC「1.5度特別報告書」によって2度上昇と1.5度上昇の違いが明確になり、世界の危機意識が高まった。これを反映してCOP26「グラスゴー気候合意」(2021/11)で、「1.5度目標」が実質的な世界の気候目標となった。この点の記述が欲しい。	1件	P.6

### (2) 第4章 削減目標の設定

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
2	産業革命後の地球の温度上昇1.5度に抑える、に整合するためには、日本全体で2013年比60%以上のCO2削減が必要である。1.5度未満の炭素予算を考慮し、東京都の「カーボンハーフ」の目標に合わせ、 <b>豊島区においても、60%以上削減ををかけてほしい。</b>	7件	P.10
3	削減目標の設定について、豊島区で2030年における温室効果ガス2013年度比50%削減は、 <b>国の目標46%削減を上回っており、評価できる。</b> しかし、東京都の2030年カーボンハーフは、2000年度と比べての50%削減であり、国と都の整合性が求められる。2030年まであと、わずかな時間しかないので、まずは、豊島区が必ず50%削減を達成できるように一年ごとの削減達成を確認する必要がある。その上で、国及び東京都の削減目標が達成できるように連携して進めていただきたい。	1件	P.10

### (3) 第5章 2050年に向けた戦略

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
4	「多様な主体との連携・協働による環境都市づくり」については、具体的な協働形態が現時点で存在するのであれば、言及したほうがわかりやすい。まだ存在していない場合、いつまでにどの部署がどういうものをつくるのか明記してほしい。	1件	P.11

### アクション1 環境にやさしいエネルギーの利用促進と省エネルギー化の推進

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
5	「アクション1 環境にやさしいエネルギーの利用促進と省エネルギー化の推進」について、「アクション1 省エネルギー化の推進と環境にやさしいエネルギーの利用促進」に変更してはどうか。理由は、まず省エネが重要というメッセージを込めるためである。	1件	P.13
6	2050年に、ZEH、ZEB がすべて実現する、また、2030年にはエネルギー消費量が半減するという目標を達成するためには、既存住宅、特に住宅数の60%を占める既設の共同住宅へのZEH化が必須である。	1件	P.13-14
7	太陽光パネルの設置拡大については、同時に系統電力と接続・コントロール可能な蓄電設備が必要であり、補助金でも「再エネ発電設備+蓄電設備」の導入を最優先で後押しすべきだと考える。パネルの設置だけでなく、余剰電力の対応、電力不足時にどう安定供給を行うかという視点もあわせて検討・推進してほしい。	1件	P.13-15
8	区内の多くの飲食店は、生ごみなど事業用廃棄物として業者に引き取ってもらっていると思われる。これらが燃えるゴミとなってしまっているのなら、異物が入らないように生ごみを分け、業者に渡し、バイオガス発電に利用するような仕組みを構築することを提案する。	1件	P.13-15
9	区の公共施設だけでなく、区内の住宅や事業所の省エネ化をすすめるべき。パッシブ建築、断熱性の高い建築方式、省エネ型空調、省エネ機器の導入と、区の補助金だけでなく、都や日本政府の補助金など、どのようなものがあるか、区民や区内の事業者に分かりやすく伝えるため、システム(一覧)をつくり、そこにアクセスしやすくすべき。(補助金に関しての相談を受けるなど)	1件	P.13-15

10	会社・学校、商業施設、家庭で総排出量が76.2%になる豊島区。重工業地域を抱えている地方自治体と異なり、他の市町村と比べると削減しやすい状況下にあるので、既存家屋や商業施設等に対する断熱強化策に潤沢に補助金が出るようにしてほしい。	1件	P.13-15
11	「断熱強化」は、あらゆる地球温暖化防止技術の中でも一番費用対効果が高いとされる技術だという研究論文も発表されてる(マッキンゼークオターリー)。ZEHIに関する記載はあるが、遮熱塗料などの利用を既存建物へ利用することについては記載がないので、加えてほしい。	1件	P.13-15
12	集合住宅についても、断熱性能の向上を戦略に含んでほしい。(新規建築時の義務化、リフォームへの補助金など)	1件	P.14
13	「建築物の省エネ化」とあるのを「建築物の断熱性能をあげ、より効率のよい省エネ機器への更新」と、施策を明確に表現してほしい。	1件	P.14
14	「低炭素まちづくりを推進していきます」とあるが「脱炭素まちづくり」に変更してほしい。現段階では「低炭素」では不十分で「脱炭素」であるべきである。	1件	P.14

## アクション2 未来へ向けたライフスタイルの転換

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
15	「アクション2 未来へ向けたライフスタイルの転換」において「ナッジ」に触れているが、具体策が書かれていない。具体策はこれからなのか、すでにあるのか明確に示したほうがよい。	1件	P.17-18
16	アクション2で提示されているライフスタイル変換の取り組みについては、省エネや食品ロスにやや偏った記述が多い気がするので、今一度大きな効果が見込める取組や消費者の、くらし全体を通じたライフスタイル変換(ライフ・スタイル カーボンフットプリント)に基づくメッセージングを検討してほしい。「やったほうがよい」という広報活動ではなく、「豊島区の50%がこれをできれば、2030年の～が達成できる」と目標と紐づけたメッセージを、効果の高い取組から行うことを推奨する。	1件	P.17-19
17	行動変容を促す仕組みづくりをしてほしい。気候変動に全く関心のない人が、自分では普通に暮らしているように思っても二酸化炭素を削減できるようにしなければ、二酸化炭素の大幅削減は困難である。 行動変容を促すことにつながる案件の補助金などの制度について加筆してほしい。また、行動変容の促しにつながる案件の補助金は期限をつけずに通年応募できるようにしてほしい。	1件	P.17-19
18	企業努力だけでなく、取り組みを後押しするために、下記のようなサポートを検討してほしい。 ・区内中小企業など、社内人材を育成するのが難しい組織向けの、エコリーフ・CFP 申請支援やカーボンフットプリント低減のノウハウを提供するサポートの提供 ・エコリーフ・CFP 対応、ESG 経営に積極的な企業の表彰、広報支援、税制優遇	1件	P.17-19
19	区民個人が家庭などで直ぐに身近に取り組みするひとつとして、「自転車の利活用による省エネの区民を挙げた一段の推進」はどうか。自転車に関して、駐輪場や道路環境の整備といった行政からのインフラ策がある一方、「環境に優しいライフスタイルを実施している」と回答する人の割合(2030年目標:60%)を掲げているが、具体策がやや不明確である。区民の自転車利活用推進を区民サイドの具体策とすることにより、脱炭素への官民全体としての主体性が増すと思われる。	1件	P.17-19
20	「ウォークアブルなまち」の実現が楽しみである。	2件	P.18
21	ウォークアブルなまちは、なぜ、環境に良いのか。	1件	P.18
22	「普及啓発」で、地域や学校、民間企業等と連携した環境教育を推進していくことは、ぜひ進めてほしいと思う。その環境教育がより効果のあるものになるように、学校においては、学校教育全体を通してカリキュラムに位置付け、どの学校でも系統的に推進していくことが必要かと考える。教師や学校によって環境に対する意識には温度差があるように感じるため、その必要性を改めて確認していくことは必要かと考える。ライフスタイルの変化に果たす教育の力は大きなものがあると思うのでお願いしたい。	1件	P.18
23	普及啓発のところは、文章を簡潔にしたほうが良い。	1件	P.18
24	カーシェアリングやライドリングをやめるなどの記載があるが、たとえば集合住宅管理組合向けに講習を開催したり、実際に補助金をつけてカーシェアリングモデル事業を募集したり、またライドリングは東京環境確保条例で禁止されていることを明記し、取締月間を設けるなどして確実な実施を担保してほしい。また、現状ライドリングは罰金が課せられないが、罰金も検討してほしい。	1件	P.19
25	「製品の購入や買い替えの際には、環境にやさしい製品、サービスを選びましょう」とあるが、商品棚に環境にやさしい製品しか並べないようにならない限り、環境にやさしくない製品は購入される。「つくる責任」を明確化し、環境にやさしい製品でないものが並べないようになると例えばメーカーに製品の引き取り義務を課すなどの施策を検討してほしい。	1件	P.19

## アクション3 資源循環・3Rの推進

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
-----	---------	----	-----------

26	<p>区の取り組みとして、コンポストの普及促進に力をいれてみてはどうか。他区では、生ごみの減量やリサイクル推進のために、「生ごみ処理機」および「生ごみコンポスト(堆肥)化容器」をあっせんしており、商品を割安で購入できる。</p> <p>P.23に、2030年目標は一人一日あたりのごみの量を470g/人日にするとあり、令和2年度実績である541g/人日から、一人一日タマゴ1個分(約70g)のごみを削減することで目標を達成できるとのこと。この文言はとてもイメージしやすかったので、豊島区にはさらに、ごみ削減をシステムでバックアップしていただけたら嬉しく思う。</p>	1件	P.22、23
27	<p>アルミは、ポーサイトからつくるより、リサイクルの方がエネルギーを使わないなど、国内にある資源をゴミとして埋め立てるのではなく、少ないエネルギーで使い回すなど、区はサーキュラーエコミーを推進すべき。</p>	1件	P.22-24

#### アクション4 区の率先行動

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
28	2つめの◎の本文中に「率先」の言葉が2回も繰り返しているため、読みやすくした方がよい。	1件	P.25
29	<p>特別支援関連の連絡で、封筒を使いすぎていると感じている。公立であれば、交換便を活用できて、封筒や郵送費の大幅な節約になる。また保護者が届いた書類を職員に提出する手間や時間も省ける。</p> <p>学校の保健だより、給食だよりはホームページで見られるようにして、配布しないようにした方がよい。学校に掲示して、必要な人だけ、紙媒体にすれば充分である。</p>	1件	P.25
30	区の率先行動について、「 <u>2050年 目指す姿</u> 」は <u>2030年度までの目標に変更してほしい</u> 。理由は、都のカーボンハーフへの整合、1.5度目標への整合には、より迅速なシステムチェンジが必要であると考えからである。	3件	P.25
31	区有施設は全て100%再生可能エネルギーを利用するように、 <u>2030年目標を定めて素案の目標を前倒してほしい</u> 。	2件	P.25
32	2050年の全ての区有施設を再生可能エネルギーにという目標を高く評価する。区役所は象徴的に使用電力も多いので、居住部分、テナント部分との話し合いが必要かと思うが、ぜひ、 <u>一年でも早く実現できるように努力していただきたい</u> 。	1件	P.25
33	区は、自然エネルギーで発電した電力を買っているが、太陽光や風力発電ではなく、バイオマス、バイオガス、地熱、水力発電の電力を買うべき。太陽光発電は、木を切り開いた所に設置すると景観が悪化したり、土地の保水力が劣化し、震災時に地すべりなどを起こしかねない。発電量が天候によって大きく左右される太陽光、風力発電は蓄電池にためて使うか、それで水を分解して水素をつくる方がよい。でないと発電した電力が無駄になったり、余計な火力発電設備が必要になり、電気代の高騰につながる。	1件	P.25
34	アクション4の2050年目指す姿の「施設や学校がZEB化されている」の記載を「避難所等に資する公共施設や学校においては、レジリエンス向上とZEB化の両立がなされている。」と内容の追記を提案する。理由として、ゼロカーボンのためには、省エネの促進と太陽光・風力発電等の再生可能エネルギーの活用も必要一方で、持続可能なまちづくりの観点からは、環境面だけでなくレジリエンス(災害に強いまちづくり)も重要なためである。災害(風水害、地震等)に強い、都市ガスの有効利用等、環境とレジリエンスの両面で、地域社会におけるエネルギーの在り方を考える必要があり、そのためには、エネルギー源の多様化、エネルギーネットワークの多重化が必要となる。	1件	P.25
35	再生可能エネルギー導入とともに、省エネルギーも両輪で推進して行くことが重要と考える。特に、建物の断熱が日本は世界から遅れているので、公共施設の断熱をすすめていくことを明記してほしい。	1件	P.25-26
36	太陽光発電システムの導入について、可能性調査を実施して、取り付け可能な施設には取り付けをし、同時に、省エネ改修を実施してほしい。とくに保育園、小・中・高校の園舎、校舎の省エネ改修を早急に実施してほしい。	1件	P.26
37	区の公共施設の建替、リフォーム時にもっと国産材を活用すべき。床材なども国産材を国産材を活用すること、構造材としてCLT(直交集成板)を低層部に利用することを提案する。これにより、山林を活用し、木にCO2を吸収させ、端材などをバイオマス発電に利用し、ナノセルロースファイバーの製造や利用ができる。	1件	P.26

#### (4) 賛同のご意見

No.	ご意見等の概要	件数	関連する戦略ページ
38	豊島区は、 <u>全般的に素案の2050年目標を前倒して2030年に達成できるように脱炭素をがんばってほしい</u> 。	1件	全体
39	<p>気候変動の現在の実相を東京都だけでなく日本各地の様々な災害などの事例・データを挙げて説明している点、非常にわかりやすく気候危機に対する知識や関心がない人に対しても説得力を持つ内容。将来についても「環境省COOL CHOICEウェブサイト」「2100年未来の天気予報」を引用して言及している点、<u>日常的な感覚に訴えて説得力がある</u>。総じて区民への分かりやすくする工夫に優れる。</p>	1件	P.1-5

40	アクション1の区の実施策の中の緑化の実施策について主旨に賛成する。「みどりの持つ機能をより効果的に発揮させるため、公園、公共施設、道路などの緑化」は人々の生活に安らぎや潤い、道路に街路樹を配し日陰を創出することによる賑わい、熱中症予防効果による区民の安全に繋がります、より一層人が外出するなど行動変化にも繋がると思う。	1件	P.14
41	一人1日あたりのゴミ量の削減の吹き出し部分は、具体的でわかりやすく効果的だと思う。	1件	P.23